文部科学省 日本語教師養成・研修推進拠点整備事業（近畿ブロック）
2024年度　第1回公開研修会

ワークショップ：
JF「みなと」の教師向けコースを使った教師教育者研修のありかたを考える

講師　熊野七絵
（国際交流基金関西国際センター日本語教育専門員主任／研修部会員）
サポート　三宅直子
（同副主任、「みなと」教師向けコース制作・運用担当）

https://drive.google.com/drive/folders/1biEUjnY4X2R6wV5rqUR_gG_1z9yCSa3E?usp=sharing

研修会の全体構成

「JFみなと」の教師向けコースを活用した
2段階のワークショップ

- eラーニング活用

  事前課題をもとに、eラーニング活用のポイントを
  確認し、グループでeラーニング活用アイデアを考える

- 教師向けコースの教師教育者研修への活用

  反転的な教師研修体験（①）をもとに、
  「JFみなと」の教師向けコースの教師教育者研修
  への活用の可能性について考える

１．eラーニング活用ワークショップ

ワークショップ１の目標

１．eラーニング体験をふりかえり、その特徴と
　　活用のためのポイントを理解する。

２．eラーニングを活用した学習デザインを具体化できる。

ワークショップ１の流れ

- ワークショップ１の目標
- 事前課題のeラーニング体験ふりかえり　5分
  「eラーニング活用コース」受講　eラーニング体験
- eラーニング活用のポイント確認
  eラーニングのメリット・デメリット　eラーニングの使い方（4種類）
  自学自習を支援するしかけ　コース・サイト・アプリの特徴
  学習の流れをデザインする　eラーニング活用のポイント
- グループワーク　25分
  グループワークの進め方
  事前課題の活用アイデアの共有
  グループワークシート項目、活用例（３つ）
- グループワークの活用アイデア共有　15分
  グループ発表・質疑応答
- ワークショップ１の目標達成確認

事前課題のeラーニング体験ふりかえり

「みなと」の「eラーニング活用コース」を受講してみて

eラーニングを実際に体験してみて

活用アイデアは後で共有します！

eラーニングのメリット・デメリット

- 日本語学習者にとって

いつでもどこでも学習できる
ニーズに合う内容や方法、ペースで学習できる
自律学習の習慣づけができる
△継続が難しい、孤独感

- 日本語教師、学習支援者にとって

授業のリソースとして役立つ
学習者の個別支援に役立つ
△教師の役割、取り入れ方がわからない

eラーニングの使い方の4種類

a. 事前準備

b. 授業サポート

c. 反転授業

d. 自律的学習

自学自習を支援するしかけ

- 自学自習を支援する「学習の流れ」になっているか

・指導方略　　導入⇒練習⇒まとめ
・言語習得過程　インプット⇒気づき⇒アウトプット

- 自学自習を続けられるよう「動機づけ、魅力」を高めているか

・ARCSモデル　　注意、関連性、自信、満足感
・ゲーミフィケーション　没入感、選択性、競争、挑戦、ご褒美

- 自学自習を続けられる「学習体験」になっているか

・MOOC、学習分析学　画面上の提示（UI）、ユーザー体験（UX）

オンラインコース、サイト、アプリの特徴

	オンラインコース	サイト	アプリ
学習内容	目標、導入、練習、 評価の一連の学習	場面動画、文法、 語彙、漢字など	文字、語彙などに特 化した内容
構成	コース、マイページ 総合的、連続性	内容別コンテンツ 選択式	辞書、クイズ・ゲーム 簡易
利用場面	自学自習用 授業利用も可 反転、授業内、復習 教材と併用	自習・授業利用 授業内、復習 選択・URL指定	自学自習用 授業利用も可 復習 個別・内容特化

コロナ禍による日本語教育の変化

【学習】

集合

対面授業

宿題・予復習

【教材】

教科書、プリントetc

【教師】

コースデザイン、授業

教師の「教授」中心

【学習】

個人

自学自習

オンライン授業

【教材】

電子教材、PDF、動画etc

eラーニング（サイト、アプリ）

【教師】

オンライン授業、サポート

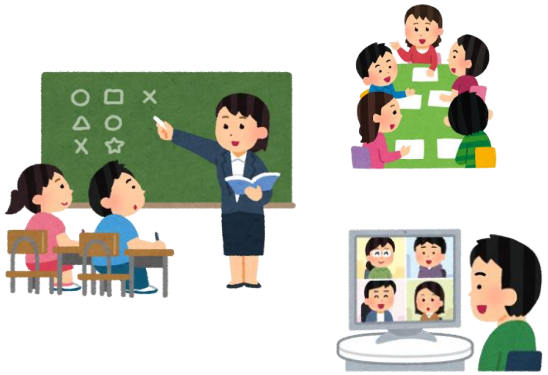
学習者の「学習」中心

学習の流れをデザインする

教師視点の
Teaching　デザイン
教授内容、教え方

学習者視点の
Learning　デザイン
学習体験、プロセス

eラーニングを活用した学習デザイン



個別化

eラーニング

協働

授業、対話

自学自習（個別化）と授業（協働）を効果的に組み合わせ、学習の流れをデザインする

eラーニング活用のためのポイント

- 課題やニーズに合うeラーニングを探す
- 学習者として体験する
- 自学自習を支援するしかけを知る
- 自学自習と授業での学習の流れをデザインする

グループワークの進め方

① 事前課題の活用アイデアを共有する
（各自1分程度）

② 授業前、中、後も含めた学習デザインという観点から、グループで、活用アイデアを話し合い、具体化する。
（進行、書記、報告の係を決め、書記はGoogle Slideに記入）

③ 全体でグループの活用アイデアを共有する。
（各グループからSlideを投影しながら、2分以内で発表、質問）

https://drive.google.com/drive/folders/1biEUjnY4X2R6wV5rqURgG_1z9yCSa3E?usp=sharing

事前課題の活用アイデア共有

事前課題の活用アイデアを共有する（各自1分程度）

対象学習者×リソース

グループ１：留学生（日本語学校、専門学校）×社会・文化（伝統文化、俳句）

グループ２：留学生（日本語学校、専門学校）×文字

グループ３：留学生（大学、大学院）×総合（まるごと、いろどり）

グループ４：留学生（大学、大学院）×ひろがる

グループ５：留学生（大学、大学院）×関西弁

グループ６：生活者・就労者（地域）×社会・文化（生活）

グループ７：留学生（大学、大学院）×社会・文化（アニメ・マンガ）

グループワークシート項目

eラーニング：　⇒活用するeラーニングを選ぶ

対象者：　⇒留学生、レベルなど

学習目標：　⇒なるべくCan-do目標で
1．**～できる。**

使い方：　⇒使い方の4種類

学習の流れ：　⇒授業前、中、後など、学習の流れをデザイン
授業前：①
授業中：②
③
授業後：④

評価：　⇒目標の達成をだれが、どう評価、FBするか

活用例１

eラーニング：オンラインコース⑧「みなと」の「俳句入門B1自習コース」
対象者：大学院生・研究者、中級（B1）レベル、10名
学習目標：
１．俳句の特徴について読んで、俳句に関係があることば（拍、季語、切れ字など）を理解できる。
２．俳句を読んで、どんな情景か思い浮かべることができる。
３．俳句の作り方のポイントに注意しながら、季節や自然をテーマに俳句を作ることができる。
使い方：反転授業、授業サポート
学習の流れ：
授業前：①事前教材としてSTEP1「俳句って何？」を学習してくる。
授業中：②STEP２「俳句を作ろう」の俳句をみんなで鑑賞する
③STEP３「俳句を作ろう」のワークシートと季語リストを使って、自分で詠んでみる。
④クラス内で共有する。
授業後：⑤俳句コースのグループ掲示板に投稿する。（他の受講者の俳句にコメントする）
評価：
１．コース内で確認。２．クラス内で確認。
３．クラス内でピアコメント、授業後「みなと」グループでピアコメント
学習目標１．２．３．の達成について、クラス内で３段階自己評価を挙手してもらう。

活用例２

eラーニング：いろどり日本語オンラインコース入門（A1）
対象者：生活者、入門（A1）レベル、1名（就労しながら地方で生活しているが話せない、周辺に日本語教室はない）
学習目標：
１．近所の人や職場の人とあいさつしたり、自分のこと、仕事などについて、相手がゆっくりはっきり話してくれれば、簡単な会話ができる。
２．買い物、食事、道聞きなどの簡単な日常生活でのやりとりができる。
使い方：反転授業、復習
学習の流れ：
授業前：①いろどり日本語オンラインコースの「学習コンテンツ」を週に1課自学自習する。
Can-do目標ごとに学習し、会話のシャドーイング練習や録音練習などをしておく。
授業中：②翌週、職場の先輩などの学習支援者に、学習した課の会話の流れを見せて、相手役になってもらい、会話してみる。
授業後：③その課の「練習コンテンツ」のアプリで、自分が苦手な部分（例：ことば、聴解など）の練習を自学自習する。→次の課の①へ
評価：
②が終わったら、Can-do達成について3段階で自己評価とし、気づいたことをメモしておく（自分の言語で）。実生活の場面で使ってみたら、メモを追記する。

活用例３

eラーニング：アプリ　HIRAGANA Memory Hint、KATAKANA Memory Hint
※未習者には、「みなと」のひらがな/カタカナ自習コースの受講もすすめる
対象者：留学生、入門（A1）レベル、交換留学生・理系の大学院生など、かな未習者・未定着者
学習目標：ひらがな・カタカナを読むことができる
使い方：反転授業
学習の流れ：

授業前：①次回の範囲（あ～か行、など）を予告。学習者はアプリで自学自習しておく。
授業中：②授業の冒頭で３分など時間を決めて、クイズ（Read the Hiraganaなど）を各自のスマホで行い、ペアで競う。
③必要に応じて、各自Memory Hintで確認する。

評価：

②、③の後今日の範囲のかなが読めるようになったかどうか、自己評価する

グループワークの活動アイデア共有

活用アイデアを共有する（各グループ２分以内）

対象学習者×リソース

グループ１：留学生（日本語学校、専門学校）×社会・文化（伝統文化、俳句）

グループ２：留学生（日本語学校、専門学校）×文字

グループ３：留学生（大学、大学院）×総合（まるごと、いろどり）

グループ４：留学生（大学、大学院）×ひろがる

グループ５：留学生（大学、大学院）×関西弁

グループ６：生活者・就労者（地域）×社会・文化（生活）

グループ７：留学生（大学、大学院）×社会・文化（アニメ・マンガ）

ワークショップの目標達成確認

１．eラーニングの体験をふりかえり、その特徴と
　　活用のためのポイントを理解する。

２．eラーニングを活用した学習デザインを具体化できる。